

令和2年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第3年次）（概要）

1 研究開発課題名	
地域に貢献する取組を通して「本物の専門的職業人」を育成するためのプログラム	
2 研究の概要	
<p>本校が目指す「本物の専門的職業人」の育成とは、「将来にわたって水産業及び海洋関連産業の動向に対応でき、豊富な知識と高度な技術力を習得した人材」である。具体的には、「海面の多様な利用を踏まえ、海洋環境基準及び環境保全等に対応できる人材」、「水産や海洋に関連する機器や流通等の技術革新に対応できる人材」、「船舶や企業内における情報セキュリティや食品安全等の危機管理に対応できる人材」、「水産物及び水産加工品の品質管理や衛生管理に対応できる人材」、「漁業及び水産加工業の経営に対応できる人材」、「漁船をはじめとする船員養成の国際基準等を踏まえて現場で対応できる人材」等を育成するため、積極性、責任感、協働性、向上心、コミュニケーション力、分析力、継続力、実践力、創造力、表現力といった資質・能力の向上を目指すものである。</p> <p>本研究では、「地域の災害に備える」及び「地域の産業を支える」という視点から、学科の特色に応じた7つのテーマに取り組む。あわせて、ホームページ、学校新聞、校内報告会、中学生や地元住民への報告会、枕崎市報、地区専門高校フェスタ、成果報告書配布などを通してその成果を県内及び全国に情報発信し、地域社会に広く貢献する研究とする。</p>	
3 令和2年度実施規模	
全学科・コースを対象に実施した。	
4 研究内容	
○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）	
第1年次	<p>【港湾内の航路を確保するための水中ロボット（ROV）開発】 ○港湾内航路確保用ROVの開発と継続的な補修、○ソナー、GPS、ROVを用いた航路確保方法の開発と習熟訓練、○災害に対応できるROV操縦技術の習熟訓練、○全国水産・海洋高等学校マリンロボットコンテスト出場</p> <p>【臨時災害放送局開設に向けた取組】 ○臨時災害放送局の開設に関する講習、○FM波の空間伝搬についての学習、○臨時災害放送局を開設している自治体（熊本県上益城郡益城町）の調査、○枕崎市防災訓練への参加、○無線機器取扱・アンテナ設置訓練及び通話訓練</p> <p>【地元の食材を生かした備蓄可能な製品の開発】 ○全国の備蓄食糧・製品調査、○枕崎市で水揚げされる未利用魚介類の調査・研究、○枕崎市及び南九州市・南さつま市で収穫される穀物や畜産物の調査・研究、○非常食の研究・レシピ開発と開発した製品の検討会・試食会、○開発した製品を用いたの料理コンテスト・イベント参加、○地元企業等による衛生管理と製造機器に関する講習</p> <p>【防災かまどベンチで調理可能な非常食レシピの開発】 ○過去の災害のかまどベンチ使用例の調査、○災害時に作られている炊き出し等のレシピの調査・研究、○かまどベンチを使用した非常食レシピの研究・開発、○かまどベンチの使用法の講習、○枕崎市防災訓練参加</p> <p>【藻場への新たなアプローチに関する取組】 ○マルチコプターに関する基礎的な知識の習得、○マルチコプターの基礎的な操縦技術の習得と指導者の養成、○藻場再生実習（ウニ除去活動） ○無人航空従事者試験</p> <p>【チョウザメの種苗生産とキャビアの活用】 ○飼育したチョウザメからの卵巣の摘出・加工、○魚体に負荷をかける雄雌判別技術の習得、○地域企業と連携した新メニュー開発、○質の高いキャビアを製造するための研究</p> <p>【海技免許講習の充実による後継者育成に関する取組】 ○実習船における実践的な実技講習の研究、○他の海技養成施設における免許講習の実施状況及び内容の調査・研究、○企業や公共機関と連携した研修及び実技講習、○講習の指導書（手引き）作成</p>
第2年次	<p>【港湾内の航路を確保するための水中ロボット（ROV）開発】 ○港湾内航路確保用ROVの製作と継続的な補修、○GPS付き音響測深機、ROVによる航路確保方法の開発と習熟訓練、○災害時に迅速に対応するためのROV操縦技術の習熟訓練、○全国水産・海洋高等学校マリンロボットコンテスト出場、○GPS付き音響測深機とダイビングでの目視による枕崎港内及びその周辺海域の海底地形図の作成、○枕崎市総合防災訓練参加</p> <p>【臨時災害放送局開設に向けた取組】 ○無線機器の取扱訓練、アンテナの設置訓練、通話訓練、○基地局設置場所についての検討会、○FM波を受信可能なエリアマップの作成、○枕崎市総合防災訓練参加、○被災者避難場所についての検討会、○停電を想定した設置訓練</p> <p>【地元の食材を生かした備蓄可能な製品の開発】 ○枕崎市で水揚げされる未利用魚介類の調査・研究、○製品の研究・試作・アンケートの実施、○考案レシピでの料理コンテスト・イベント参加、○地元企業との開発した製品の検討会、○枕崎市総合防災訓練参加、○HACCP及び地元特産品を生かした製品開発に関する講習会</p> <p>【防災かまどベンチで調理可能な非常食レシピの開発】 ○かまどベンチの取扱い方法の習得と改善、○製品の研究・試作・アンケートの実施、○地元企業と製品開発に関する検討会、○非常食レシピ集の図案の検討、○枕崎市総合防災訓練参加</p> <p>【藻場への新たなアプローチに関する取組】 ○マルチコプターに関する基礎的な知識・操縦技術の習得、○マルチコプターに関する基礎講習会、○南九州市藻場再生実習（ウニ除去活動）、○無人航空従事者試験、○画像処理に関する勉強会、○ダイビング実習での安全管理の試験実施、○指宿市藻場再生実習（ウニ除去活動）、○マルチコプターを活用した藻場空撮、○マルチコプター資格認定</p> <p>【チョウザメの種苗生産とキャビアの活用】 ○未受精卵（キャビア）採取・加工に関する技術の開発、○雌雄判別技術の開発・習得、○冷却水槽の製作、○日本水産学会九州支部大会「高校生による研究発表」出場、○ホルモン投与に関する技術の習得、○採精技術の習得、○採卵技術の習得</p> <p>【海技免許講習の充実による後継者育成に関する取組】 ○乗船実習における操縦の検証、○他の海技養成施設における免許講習の実施状況等調査の分析、○講習の指導書（手引き）作成、○指導書（手引き）を利用した講習の実施及び検証、○海技免許講習の実施方法の検証、○企業や公共機関と連携した研修及び実技講習</p>

第3年次

【港湾内の航路を確保するための水中ロボット(ROV)開発】○ROVの製作と継続的な補修、○操縦マニュアルの作成及び全国水産高等学校長協会エンジン部会への報告、○ROV操縦技術の習熟訓練、○全国水産・海洋高等学校マリロボットコンテスト出場、○枕崎市総合防災訓練参加、○生徒による講習会

【臨時災害放送局開設に向けた取組】○無線機器取扱訓練、アンテナ設置訓練、通話訓練、停電想定訓練、○生徒による講習会、○FM波を受信可能なエリアマップの作成、○枕崎市総合防災訓練参加、○臨時災害放送局開設のマニュアル作成、○成果報告

【地元の食材を生かした備蓄可能な製品の開発】○万能ダレの濃縮と賞味期限の設定、○インスタントラーメン試作品開発に向けた活動、○未利用資源を使用した長期保存可能食品の開発、○中間報告会、○枕崎市総合防災訓練参加、○枕崎市との備蓄に関する検討会、○HACCP基礎講座、○生徒による講習会、○成果報告

【防災かまどベンチで調理可能な非常食レシピの開発】○かまどベンチの取扱い方法の習得と改善、○製品の研究・試作・アンケートの実施、○非常食レシピ集作成、○地元企業と製品開発に関する検討会、○小・中学生への防災教育、○枕崎市総合防災訓練参加、○生徒による講習会、○成果報告

【薬場への新たなアプローチに関する取組】○マルチコプターに関する基礎的な知識・操縦技術の習得、○マルチコプターに関する基礎講習会、○薬場再生実習(ウニ除去活動)、○薬場空撮実習、○無人航空従事者試験、○画像処理に関する勉強会、○ダイビング実習での安全管理の実施、○県内養殖業者へのニーズ調査、○マルチコプター資格認定、○生徒による講習会

【チョウザメの種苗生産とキャビアの活用】○飼育に関する技術の習得、○雌雄判別技術の習得、○輸卵管カッターの製作、○日本水産学会発表、○ホルモン投与に関する技術の習得、○採精・採卵技術の習得、○授精技術の習得、○脱糞技術の習得、○初期餌料の試験、○生徒による講習会、○枕崎市内における候補地の水温観測と水質調査

【海技免許講習の充実による後継者育成に関する取組】○指導書運用による資質・技能向上に関する検証、○指導書を利用した評価方法の確立、○講習におけるチームマネジメントの研究、○指導書作成の報告、○生徒による講習会

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

なし

○令和2年度の教育課程の内容（令和2年度教育課程表を含めること）

別添

○具体的な研究事項・活動内容

①【港湾内の航路を確保するための水中ロボット（ROV）開発】

研究事項	期日・場所	参加者	内容
ROVの製作と継続的な補修	令和2年4月～11月 本校	3年海洋科機関コース11名	ROVのコントローラ・コントローラボックス・筐体製作
操縦マニュアルの作成及び全国水産高等学校長協会エンジン部会への報告	令和2年4月～11月 本校	3年海洋科機関コース11名	ROVの操縦技術の熟練度を見える化するための操縦マニュアル作成
ROV操縦技術の習熟訓練	令和2年6月～12月 本校、かごしま水族館	3年海洋科機関コース11名	操縦マニュアルを元に操縦検定を実施
全国水産・海洋高等学校マリロボットコンテスト出場	令和2年10月～11月 本校	3年海洋科機関コース11名	マリロボットコンテストに向けた筐体の製作
枕崎市総合防災訓練参加	令和2年5月～9月 本校	3年海洋科機関コース11名	訓練内容の検討、GPS付き音響測深機の操作及びROVの操縦訓練を行う準備
生徒による講習会	令和2年7月3日 本校	1年海洋科40名 3年海洋科機関コース11名	1年生にハンダ付けやROVの操縦体験を実施

②【臨時災害放送局開設に向けた取組】

研究事項	期日・場所	参加者	内容
無線機器取扱訓練、アンテナ設置訓練、通話訓練、停電想定訓練	令和2年5月27日、11月25日 本校	3年情報通信科16名	模擬臨時災害放送局の設営、アンテナの設置・風雨対策、アマチュア無線局の設備を用いた通話訓練、発動発電機の取扱訓練
生徒による講習会	令和2年6月10日、10月13日 本校	1年情報通信科39名 2年情報通信科38名 3年情報通信科16名	3年生から1、2年生へ臨時災害放送局の概要やアンテナ設置、通話方法の講習
FM波を受信可能なエリアマップの作成	令和2年6月～12月 サン・フレッシュ枕崎、妙見センター	3年情報通信科16名	枕崎市が指定する第2・3拠点を基地局とした受信感度確認とエリアマップ作成
枕崎市総合防災訓練参加	令和2年9月 本校	3年情報通信科16名	枕崎市総合防災訓練で模擬臨時災害放送局開設の準備

臨時災害放送局開設のマニュアル作成	令和2年12月 本校	3年情報通信科16名	枕崎市へ提供する臨時災害放送局開設マニュアルを作成
成果報告	令和3年2月 枕崎市役所、総務省九州総合通信局	3年情報通信科16名	九州総合通信局と枕崎市役所に3年間の成果報告予定

③【地元の食材を生かした備蓄可能な製品の開発】

研究事項	期日・場所	参加者	内容
万能ダレの濃縮と賞味期限の設定	令和2年4月～令和3年2月 (株)マルハチ・テクノロジー	3年食品工学科11名	カメノテを使用した万能ダレ濃縮と賞味期限設定(加速度保存、官能試験、微生物検査などの実施)
インスタントラーメン試作品開発に向けた活動	令和2年5月～12月 本校	3年食品工学科11名	(株)ヒガシマルとインスタントラーメン開発
未利用資源を使用した長期保存可能食品の開発	令和2年4月～12月 本校	3年食品工学科11名	春先に漁獲されるブリを使用した「ブリの赤ワイン煮缶詰」、「ブリの味噌バター煮缶詰」開発
中間報告会	令和2年9月 本校	3年食品工学科11名	これまでの取組の発表と今後の取組について、運営指導員からの指導・助言
枕崎市総合防災訓練参加	令和2年9月 本校	3年食品工学科11名	備蓄食料品缶詰及びラーメン提供のための準備
枕崎市との備蓄に関する検討会	令和2年11月24日、27日 枕崎市役所、枕崎市漁協	3年食品工学科11名	枕崎市漁協総合加工場長と枕崎市総務課危機管理対策室の方々との協議
HACCP基礎講座	令和2年12月2日 本校	1年食品工学科25名 2年食品工学科22名 3年食品工学科27名	食品工学科生徒に対し代表生徒が「HACCP 基礎講座」を実施
生徒による講習会	令和2年10月21日 本校	3年食品工学科11名	枕崎小学校5年生にSPHでの学習成果を披露
成果報告	令和2年11月24日 枕崎市漁協、枕崎市役所	3年食品工学科11名	完成した製品の試食会及び運営指導員からの指導・助言

④【防災かまどベンチで調理可能な非常食レシピの開発】

研究事項	期日・場所	参加者	内容
かまどベンチの取扱い方法の習得と改善	令和2年4月～12月 本校	3年食品工学科11名	一斗缶からかまど製作、一斗缶かまどを使用した火起こしと調理の技術向上
製品の研究・試作・アンケートの実施	令和2年4月～12月 本校	3年食品工学科11名	非常食レシピの考案と試作、開発、カロリー計算とアレルギー表示
非常食レシピ集作成	令和2年5月27日、7月28日 本校	3年食品工学科11名	本校ホームページ、枕崎市役所の防災ホームページに掲載
地元企業と製品開発に関する検討会	令和2年8月26日 枕崎市役所、枕崎市漁協等	3年食品工学科11名	運営指導員に活動の進捗状況報告と意見交換会実施
小・中学生への防災教育	令和2年4月～12月 本校	3年食品工学科11名	パワーポイント作成、防災パンフレット作成、防災教育用DVD作成、防災教育(スーパーどこでも授業)実施
枕崎市総合防災訓練参加	令和2年9月 本校	3年食品工学科11名	火起こし、調理、配膳の役割分担と事前準備及び実践
生徒による講習会	令和2年4月17日、9月18日、10月16日 本校	1年食品工学科25名 2年食品工学科5名 3年食品工学科11名	3年生が研究内容の紹介や火起こし技術の習得のための講習会を1・2年生に対し実施
成果報告	令和3年2月 枕崎市役所、枕崎市漁協等	3年食品工学科11名	枕崎市と企業に3年間の成果報告予定

⑤【藻場への新たなアプローチに関する取組】

研究事項	期日・場所	参加者	内容
マルチコプターに関する基礎的な知識・操縦技術の習得	通年 本校	2年海洋科栽培工学コース7名 3年海洋科栽培工学コース14名	マルチコプターの構造や飛行原理に関する知識、航空法、上昇・下降、旋回、離着陸等の実技
マルチコプターに関する基礎講習会	令和2年7月8日 本校	2年海洋科栽培工学コース7名 3年海洋科栽培工学コース14名	飛行に関連する法令等について、マルチコプターの組立て、基礎操縦技術
藻場再生実習 (ウニ除去活動)	令和2年9月28日 指宿市	3年海洋科栽培工学コース14名	ダイビング技術を活用したウニ類除去、除去海域の空撮
藻場空撮実習	令和2年5月25日、26日 指宿市	3年海洋科栽培工学コース14名	習得したマルチコプターの操縦技術を活用した藻場の空撮
無人航空従事者試験	令和2年5月24日、9月24日 本校	2年海洋科栽培工学コース7名 3年海洋科栽培工学コース14名	累計で1級9名、2級3名、3級6名、4級7名が合格
画像処理に関する勉強会	令和2年6月24日 本校	2年海洋科栽培工学コース7名 3年海洋科栽培工学コース14名	マルチコプターの安全な運用や法律関係、画像処理・解析に適した撮影方法等の講義
ダイビング実習での安全管理の実施	令和2年9～10月 南さつま市、指宿市	3年海洋科栽培工学コース14名	ダイビング実習及び藻場再生実習時にマルチコプターによる上空からのダイバー監視
県内養殖業者へのニーズ調査	令和2年10月27日～30日 垂水市、鹿屋市	3年海洋科栽培工学コース14名	養殖業でのマルチコプターの活用について、進路先である県内の養殖業者を中心に調査・まとめ
マルチコプター資格認定 (JUIDA認定試験)	令和2年11月27日 本校	3年海洋科栽培工学コース14名	14名全員合格
生徒による講習会	令和2年7月21日 本校	1年海洋科40名 3年海洋科栽培工学コース14名	本取組の概要について、3年生が1年生に講習を実施

⑥【チョウザメの種苗生産とキャビアの活用】

研究事項	期日・場所	参加者	内容
飼育に関する技術の習得	令和2年4月21日、7月3日 本校	2年海洋科栽培工学コース7名 3年海洋科栽培工学コース14名	移槽を兼ねて測長と測重を行い、タグを打ち等の技術を習得
雌雄判別技術の習得	令和2年7月3日～ 本校	2年海洋科栽培工学コース7名 3年海洋科栽培工学コース14名	新たに製作した穿刺器具を用いて雌雄判別技術を習得
輸卵管カッターの製作	令和2年9月～10月 本校	3年海洋科栽培工学コース14名	採卵時、排卵しやすいように輸卵管を切開する器具を製作
日本水産学会発表	令和2年9月～10月 本校	3年海洋科栽培工学コース14名	発表に備え、飼育、雌雄判別、種苗生産、キャビア製造に関するマニュアル作成
ホルモン投与に関する技術の習得	令和2年11月9日 本校	3年海洋科栽培工学コース14名	排卵誘発ホルモンとしてLHRHを使用することや注射の方法についての技術を習得
採精・採卵技術の習得	令和3年2月1日～5日 本校	2年海洋科栽培工学コース7名 3年海洋科栽培工学コース14名	北海道大学大学院・足立伸次教授指導の下、一連の種苗生産技術について習得予定
授精技術の習得	令和2年11月30日 本校	3年海洋科栽培工学コース14名	オスの総排泄口からの採精技術を習得 冷蔵保存や活性の確認方法を学習
脱粘技術の習得	令和2年5月20日 本校	3年海洋科栽培工学コース14名	コイの受精卵を使用し、尿素を使って分離させる技術を習得
初期餌料の試験	令和2年6月～7月 本校	2年海洋科栽培工学コース7名 3年海洋科栽培工学コース14名	シオミズボワムシの凍結ブロックを製作 微細粉末化した冷凍アカムシや配合飼料を使用
生徒による講習会	令和2年7月21日 本校	1年海洋科40名 3年海洋科栽培工学コース14名	チョウザメの飼育と種苗生産に関する取組の概要について、1年生を対象に講習会を実施
枕崎市内における候補地の水温観測と水質調査	令和2年5月13日～ 本校	3年海洋科栽培工学コース14名	枕崎市内における候補地の水温観測および水質調査を定期的実施

⑦【海技免許講習の充実による後継者育成に関する取組】

研究事項	期日・場所	参加者	内容
指導書運用による資質・技能向上に関する検証(救命講習)	令和2年9月11日 本校	3年海洋科海洋技術コース13名 専攻科2年海洋技術科7名	指導書の実習手順に沿って、特にリスクアセスメントの観点からハザード・リスクに注視しながら実施し、結果を検証
指導書を利用した評価方法の確立(救命講習)	令和2年9月10日 本校	3年海洋科海洋技術コース13名 専攻科2年海洋技術科7名	3年生が実施する救命講習(心肺蘇生法講習)を専攻科生と教員が評価並びに結果の比較
講習におけるチームマネジメントの研究(消火講習)	令和2年12月8日 本校	2年海洋科海洋技術コース15名 3年海洋科海洋技術コース13名 専攻科2年海洋技術科7名	専攻科生をリーダー、3年生をサブリーダーとして5グループに分けて、講習初体験の2年生を手助けしながらチーム形式で実施
指導書作成の報告	令和3年2月～3月 本校	2年海洋科海洋技術コース15名	指導書の内容を再チェック、ホームページへのアップ、CD等による水産・海洋系高校への配布予定
生徒による講習会	令和2年7月21日 本校	1年海洋科40名 2年海洋科海洋技術コース15名 3年海洋科海洋技術コース13名	本取組の概要について、3年生が1年生を対象に講習を実施

5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法

高校説明会(約24校)、中高連絡会(6回)、夜間説明会(5地区)、どこでも授業などを通して、多くの小・中学校の児童生徒、その保護者、教職員に対し成果を周知することができた。さらに、学校ホームページや報道を通して県内外にも広く周知された。

○実施による効果とその評価

ルーブリック評価基準表によるアンケート調査や観察法(行動・発言・実技)、作品法(成果物、レポート等)などにより効果を測定する。

①【港湾内の航路を確保するための水中ロボット(ROV)開発】海洋科機関コース3年生11名

<p>制御基盤製作において、ハンダ付けなどの技術が身に付いたことで実践力が向上した。また、諸不具合への対策を試行錯誤しながら解決できたことで分析力が向上した。ROV製作は、非常に難しい取組であったが、生徒たちは事業を成し遂げたという達成感を感じ、今後は積極性も向上するものと考えている。</p>	<p>生徒の自己評価</p>	<p>教員評価</p>
---	----------------	-------------

②【臨時災害放送局開設に向けた取組】情報通信科3年生16名

<p>生徒主体で考え実践するよう進めているので、どの資質・能力も向上しているが、特に向上したのは実践力であった。エリアマップ作成の中で無線設備の取扱いや通話、マッピング作業などを行ったためと思われる。また、表現力が向上したのは、枕崎市や総務省九州総合通信局への成果報告に向け、分かりやすい資料を作成できたためと思われる。</p>	<p>生徒の自己評価</p>	<p>教員評価</p>
--	----------------	-------------

③【地元の食材を生かした備蓄可能な製品の開発】食品工学科3年生11名

<p>4月と比べて、実践力以外の全ての数値が高くなっている。これは、試作を行ってきた製品が具体的に商品化されたこと、研究を深めていく過程で、効率よく作業ができるようになったこと、できないと思っていたことができるようになったことで、自己肯定感を感じるようになったためと思われる。</p>	<p>生徒の自己評価</p>	<p>教員評価</p>
--	----------------	-------------

④【防災かまどベンチで調理可能な非常食レシピの開発】食品工学科3年生11名

特に伸びた資質・能力は実践力だった。その理由として、一斗缶からかまどを製作し、火起こし・調理をしたことで技術の向上を体感したからだと思われる。また、小・中学生に対する防災教育や生徒による講習会では、相手に分かりやすくするため工夫したことで災害に対する知識が向上し、実演を交えた説明を行うことができたからだと思われる。

生徒の自己評価

教員評価

⑤【藻場への新たなアプローチに関する取組】海洋科栽培工学コース2年生7名、3年生14名

この取組に2年生から関わることによって、藻場に関する基礎知識や管理方法、マルチコプターに関する知識・技術が着実に身に付き、海洋環境への生徒の意識が向上した。資質・能力については、すべての項目でバランス良く向上した。また、3年間の取組を通して発表の機会が多くあったことで、プレゼンテーション能力が格段に向上した。

生徒の自己評価 (2年生)

生徒の自己評価 (3年生)

教員評価

⑥【チョウザメの種苗生産とキャビアの活用】海洋科栽培工学3年生14名

取組の中で生徒に実感させる指導や生徒全員での意見交換会等を実施し、それぞれの役割について自覚を促した。生徒のアイデアを積極的に生かし、全員で取り組むという意識を持たせた結果、すべての資質・能力が向上した。

また、突発的なトラブルへの対処やそれに伴う技術力が身に付き、生徒たちで話し合うときの発想力やそれを形にする力も付いた。

生徒の自己評価

教員評価

⑦【海技免許講習の充実による後継者育成に関する取組】海洋科海洋技術コース2年生15名、3年生13名

3年生は2年目の取組となり、すべての資質・能力で向上が見られたが、特に積極性、実践力、分析力が向上した。これは、チームマネジメントを通して、異なる学年とのグループ活動により責任感が芽生え、向上に結び付いたと考える。2年生の評価が低い理由は、3年生ほど多くのことに取り組めなかったことや上級生との活動で緊張する場面が多く、主体的に取り組めなかったことが考えられる。

生徒の自己評価 (2年生)

生徒の自己評価 (3年生)

教員評価

SPHを中心的行った3年生の自己評価の平均が定量目標 2.8 に達したのは②③④⑤⑥の取組だったが、①は2.62、⑦は2.77と目標に近い評価であった。教員評価の平均は全ての取組で2.8に達していた。このことから、生徒の自己評価と教員評価には大きな差がないことが分かる。⑤⑦では2年生も取り組んだが、生徒の自己評価、教員評価とも2.8に達しなかった。これは、2年生は3年生に比べ取り組む項目が少なかつたため、このような結果になったと推測する。

○実施上の問題点と今後の課題

全体的に見ると、生徒の自己評価と教員評価に大きな差はないように見えるが、細かく見ていくと差の大きい取組もあるので、今後もルーブリック評価基準表に改善を加えていくことで対処したい。また、新型コロナウイルス感染症の影響から枕崎市総合防災訓練での実演も実現できていないが、次年度に向け担当部署との協議を進めているところである。生徒の資質・能力を向上させる機会、そして、校外に周知する機会と捉え話を進めていきたい。他にも、枕崎市の予算で開発した備蓄製品を製造する案やマルチコプターの技術を防災に活用する案もあり、SPH事業終了とともに規模を縮小するのではなく、今後も発展的な取組としたい。